

規制・制度改革委員会  
農業ワーキンググループ第1回  
議事概要

1. 日時：平成24年6月8日（金）18:06～18:29
2. 場所：中央合同庁舎第4号館共用120会議室
3. 出席者：  
（委員）岡素之（委員長）、大室康一（委員長代理）、大上二三雄（委員会構成員）  
翁百合（委員会構成員）、佐久間総一郎（委員会構成員）、本間正義  
宮治勇輔、吉田誠  
（政務）岡田副総理、中塚副大臣  
（事務局）熊谷規制・制度改革担当事務局長、宮本行政刷新会議事務局次長  
中原参事官、小村参事官
4. 議題：  
（開会）  
（1）農業WGの当面の進め方について  
（2）重点3項目の事務協議に関する経過報告  
（3）重点3項目以外の閣議決定事項のフォローアップ報告  
（閉会）
5. 議事概要：

○小村参事官 それでは、「規制・制度改革委員会 農業ワーキンググループ」を開催いたします。皆様方におきましては、御多忙の中、御出席をいただき、誠にありがとうございます。

事務局参事官の小村でございます。よろしくお願いたします。

5月31日の規制・制度改革委員会におきまして、農業ワーキンググループの設置をお認めいただきました。構成員といたしまして、委員会委員から主に御担当される方として、所属等ちょっと省かせていただきますが、大上二三雄さん、翁百合さん、佐久間総一郎さんに加え、当ワーキンググループの言わば専門の委員の方として、新たに澤浦彰治さん、本間正義さん、宮治勇輔さん、吉田誠さんの計7名に当ワーキンググループについてはお願することといたしました。所属等につきましては、机上にございます資料1-2を御参照いただくということをお願いいたします。

なお、本日、所用により澤浦委員については御欠席となっております。

この他に資料1-1にございますとおり、規制・制度改革委員会の「農業ワーキンググループの設置について」の第4項において、「委員会構成員は、農業WGに参加すること

ができる」とされており。本日は規制・制度改革委員会の岡委員長及び大室委員長代理にも御参加いただいております。

加えまして、本日、担当の政務でございます岡田副総理及び中塚副大臣にも御出席いただいております。まず、岡田副総理及び中塚副大臣に御挨拶をいただきます。岡田副総理、お願いいたします。

○岡田副総理 今日はお忙しいところありがとうございます。この農業ワーキンググループ、少し急いで立ち上げさせていただきましたが、私は日本の農業の体質強化、競争力の強化というのは非常に重要なテーマであると思っております。そういう中で、規制・制度改革が取り組むべき課題について、これまで農業に関していろいろな議論が行われておりましたが、そういったものも踏まえつつ検証する。そして、農業を成長産業とするために我が国農業のあるべき姿に立ち返った議論が必要であると考えて、このワーキンググループを設置したところでございます。

それぞれの御見識をお持ちの委員の先生方の建設的な御意見を是非、お願い申し上げたいと思います。

○小村参事官 ありがとうございます。

続きまして、中塚副大臣、お願いします。

○中塚副大臣 どうも皆さん、金曜日の遅い時間にありがとうございます。今の副総理のお話に尽きていると思いますが、今まで委員の先生方にフォローアップ等をお願いいたしてまいりました。フォローアップ自体は決まったことですのでやってもらわなくては困るわけなのですが、そのフォローアップの基になっている考え方というのがちゃんと貫徹されているかどうかという視点が大切だと思いますし、更には、その他の項目も含めまして第4クールに向けたこれからの問題提起のような御議論もいただいて、副総理のお言葉をお借りして、農業の成長産業化ということについて多面的な御議論を賜ればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○小村参事官 ありがとうございます。

先ほど御案内いたしましたとおり、規制・制度改革委員会の岡委員長にも御出席をいただいております。岡委員長、御挨拶をお願いいたします。

○岡委員長 既に副総理、副大臣からお話があったことと重複いたしますので、ポイントだけ申します。

我々の委員会の中で、農業を重点分野の1つとして位置付けて、これまでも議論してきました。委員の中には第3クールの早い段階から、農業のワーキンググループを立ち上げるべきではないかという御意見もございましたが、全体のバランスの中でまずは過去の閣議決定のフォローアップを中心にやってきたということが実態でございます。

いずれにしても、私どもは農業を重点分野として位置付けておりますので、農業を価格面でも品質面でも競争力のある、魅力のあるものにしていく。また、国民から見ても頼りになる農業になる。全て取りまとめますと、副総理が言われました農業の成長産業化

ということになるのかもしれませんが、そのような農業を実現するために阻害要因になっている規制・制度というものがあれば、これを大いに改善していくという思いでこのワーキンググループを立ち上げたということでございます。是非、委員の皆さんから、積極的な、前向きな、建設的な御意見を是非頂きたい。よろしく願いいたします。

○小村参事官 ありがとうございます。

それでは、マスコミの方はここで退室をお願いいたします。

(報道関係者退室)

○小村参事官 引き続き、議事を続けてまいります。本ワーキンググループにつきましては、特に従前から定めております主査というものは第1ワーキンググループ、第2ワーキンググループ同様に定めることはいたしません。進行役を委員会委員である佐久間委員にお願いしたいと思っております。皆様、いかがでございましょうか。

(「異議なし」と声あり)

○小村参事官 ありがとうございます。

それでは、本日、初回でございますので、各委員の皆様から一言ずつ御挨拶をいただきたいと存じます。まず、進行役の佐久間委員、それに引き続きまして、大上委員、翁委員、本間委員、宮治委員、吉田委員、最後に大室委員長代理の順で御挨拶を順次いただきまして、進行役の佐久間委員に引き継ぎたいと思います。佐久間委員、お願いいたします。

○佐久間委員 ありがとうございます。

ただいま進行役の御指名をいただきました佐久間です。私、鉄鋼会社一筋で来ましたので、昔は「産業の米」と言われていた時期もあるのですけれども、当然農業とは全く異なる産業。ただ、余りもうからないというところは似ているのかなという気もしないわけではございません。

ただ、私、民間企業ですから、民間企業というものはその企業がやると決めればやるしかない。ある意味単純なことです。農業というものはそういうわけにはいかない。したがって、そこはやはり国なりの強いリーダーシップがないとなかなか難しいのだろうなという気がいたしております。

いずれにしても、至らぬ点はあるかと思いますが、よろしく願いいたします。

○大上委員 思い出せば、2010年3月に規制・制度改革分科会の第1クールが立ち上がったとき、農業のワーキンググループができて、いろいろ議論をして、改めてそのプロセスを振り返ってみたのですが、およそいろんな議論はした。ただ、決めたものというものは本当にその中のごく一部であったというのが実感でございました。

そういった意味で、いろいろ議論してきたことを、おっしゃられるような農業の成長産業化という論点で、やりたい人がきちんといて、それが今、規制・制度上阻んでいるものを重点的に取り組んでいくということを改めて私の中では決意をした部分でございます。よろしく願いいたします。

○翁委員 翁と申します。どうぞよろしく願いいたします。

農業に対しましては、担い手が高齢化してきているという問題を抱えていて、一方で競争力の観点でもっと向上させていくことは、本当に日本全体を見ても非常に重要なテーマだと思っております。その意味でも、もう一遍農業の成長を阻害している要因をよく勉強して、何が必要なのかということを考えてまいりたいと思います。

また、この分野は論点がいろいろ出てきておりますけれども、実行していく上では政治のリーダーシップというものが非常に欠かせないと思っておりますので、是非、よろしくお願ひしたいと思っております。

○本間委員 東京大学の本間といいます。どうぞよろしくお願ひします。

規制改革あるいは規制緩和に関しては、1996年から関わっていました。当時の行政改革委員会規制緩和小委員会の頃からやっけていまして、なかなか動かないということではじくじたる思いがあるわけですが、農業の現場も当時と比べてかなり変わっけてきておまして、前向きな農家が相当出てきています。状況としても国内の市場だけを求めていくのではなくて、輸出を含めて世界市場が正に日本の農業の能力を發揮する場だと思っておりますので、そこに向けて様々な規制改革・緩和に取り組んでいければと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

○宮治委員 宮治勇輔と申します。

僕は実際に自分でも農業経営を行っているのと、NPO では農業界の中間支援組織という形で、全国各地の若くて元気な農業者のネットワークの構築と、地方自治体から依頼を受けてコンサルティングのようなことをやっけております。ですので、もちろん現場のことも分かります。農作業は余りやらないですが、現場からの農業経営者としての見地からと、全国を回って農業者の声を吸い上げての声をこの会で反映させていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

○吉田委員 吉田と申します。よろしくお願ひします。

第1クールから農業ワーキングの方に参加させていただいています。

先ほど本間先生も言われましたけれども、この3年間で随分現場の状況は変化しています。我々が現場で聞く問題も相当変化してきていますので、もう一回議論をリセットするタイミングかなと思っております。

もう一つは、よく高齢化、後継者不足等々が言われるのですが、実はそれは問題の本質ではなくて現象面なのです。ですから、それを生み出した問題の本質にもっと踏み込んだ議論をした方がいいだろうと思っております。

もう一点最後に、農業と一言で表現してしまうと、問題の本質を逃してしまうおそれがあるので、農業を多層的に捉えるべきだと思います。まさしく大規模経営で自立している生産法人もあり、ちょうど中規模で悩んでいる専業農家もある、また、零細兼業農家も数多くある。多様性ということでは畜産、酪農、野菜、米などで状況は異なるのですが、経営の面からも多層的に区分し、その層ごとにしっかりとした支援策なり成長政策というものも議論しないと、多層性を持つ農業について十把一絡げの議論をしていると問題の本質

が隠れてしまうと感じております。

私は兼業農家ですけれども、会社では産地開発から実需要者をつなぐサプライチェーンづくりをやっています。できるだけ企業と生産者、企業と言っても流通、実需側、生産者を支援する資材メーカーや金融も含めて、サプライチェーンのプレーヤー全てが連携して、サプライチェーン全体のコストダウンとか収益性の向上を目指すという考え方に、今、企業側も生産者側もシフトし始めているという状況だろうと思っています。そうした取組の中で解決できる問題も結構あるのではないかと考えています。

以上です。

○小村参事官 大室委員長代理、どうぞ。

○大室委員長代理 大室でございます。

私はこの農業の話は専門外ではございますけれども、たまたま 20 年前に千葉の方で不動産会社の支店長をやっていたときに、農地と住宅地との境界的なところの土地の取りまとめみたいな話がありまして、そのときに、兼坂祐さんといって、印旛の神様とかという人に当時私は非常に感銘を受けたのです。要するに、農業は耕地整理により 1 枚当たりの田んぼをいかに大きくするかということが一番大事なのだという話を何回もお話しされ、御自身でも印旛で 1 枚 7 ヘクタールの大きな田んぼをつくって、これさえあれば国際競争に勝てるという信念を持った方がおられました。

僕はこの話を聞いたときに、あの人はどうしているかなということを思い出したのですが、今、この農業が抱えている問題というのは、今の岡田副総理のおっしゃった成長という点でとらえていくためには、農業を魅力あるものとして参入障害になっているもの、農地の集約の問題に代表される参入規制の問題等を、このクールで自由に議論をしていく必要があるのではないかとということが、今回、参加させていただく私自身の目標でございます。

特に、フォローアップだけではなくて、もう少し根本的な話もできれば、ちょっと失礼になるかもしれないけれども、出させていただきながら、この議論を進めていく必要があるのではないのかなと感じて参加させていただきます。

○小村参事官 ありがとうございます。

そうしましたら、これより先の議事につきましては、佐久間委員にお願いいたします。よろしく申し上げます。

○佐久間委員 では、進行に入ります。

まず、議事に入ります前に 1 点確認させていただきます。本ワーキンググループにおいては、「議事概要を公表する」こととなっておりますので、御了承よろしく申し上げます。

それでは議題 1 「農業 WG の当面の進め方について」に入ります。事務局の小村参事官より説明をお願いします。

○小村参事官 お手元の資料 2、横長の紙で簡単に御説明させていただきます。

本日は初回ということで 6 月 8 日、ワーキングの設置について、また、後ほど重点 3 項

目を含みましたフォローアップの概要の経過報告をさせていただきます。それらにつきましては、ここまで委員会委員の方にはなじみがあるといいますか、していただいた作業でございまして、それを引き継いでこの後のこちらのワーキングでも確認いただいて、まとめていきたいというものでございます。

それらを踏まえまして、6月の中旬、下旬にできれば2ないし3回開催できればなと思っております。これが事務的に協議、確認しておる事項でございますので、フォローアップに関するそういったものの報告、論点整理を次回させていただきますので、それらを踏まえまして、今、第3クールと言われておりますこの期の活動というのは、6月末を目途にということとさせていただきますので、引き続いて止まることなく続けられますように、その次の時期、すなわち7月以降のテーマ案等の御検討を主にお願ひしていきたいということとでございます。

できましたら、6月下旬頃その取りまとめという形で重点3項目、その他のフォローアップについては委員会本体でやっている作業でございますので、最終的な取りまとめの仕方についてはまた検討させていただきますが、させていただきたいということと、第4クールのテーマ検討、決定ということとを6月下旬を目途にさせていただきたく思っておりますが、幾らか会議開催の時期あるいは開催数との関係もございまして、場合によっては7月にずれ込む可能性もあるかと思っておりますので、流動的な要素があるということで、御承知置きいただければと思います。

以上でございます。

○佐久間委員 ありがとうございます。

ただいまの説明につきまして、御意見、御質問がございましたら、お願いします。

それでは、また後ほど戻っていただいても結構でございますので、続きまして、議題2「重点3項目の事務協議に関する経過報告」と併せまして、議題3「重点3項目以外の閣議決定事項のフォローアップ報告」につきまして、事務局の小村参事官より説明をお願いします。

○小村参事官 幾らかここまでの分科会そのものの取組経過の御説明とも重なる部分もございまして、新しくワーキンググループの委員にも御参画いただきましたので、若干迂遠ではございますが、そういった経緯も含めて御説明させていただきます。

資料3ということで、お手元に細かな項目といたしまして、40項目ほどの閣議決定とそれに対する実施状況、更には進んだ取組・残された課題というリストがございます。これらにつきましては、第3クールと言われております今期の活動につきましては、ワーキングを2つ設置するとともに、分科会本体でフォローアップについての取組を今回重点的に進めましょうということで、9月、実質的には10月から会議を開催して取り組んでいただいております。

全体で400項目ぐらい、今まで第1クール、第2クールと行政刷新会議傘下のこの分科会の立て付けになってから閣議決定をしておりますので、その項目全てについてフォローア

ップしていくということで、各省にお願いもいたしまして、協力いただいてやってきております。

資料3といたしますのが、その際、府省から御回答いただいたものでございまして、実は今、この前の委員会で各委員の方に中身を御覧いただいて、今から先につきましては、この評価ということで取組に対して十分なのか、まだ見ていくところがあるのか等々について御検討いただいているということでございます。

その中でも、資料3の1ページ、①「農業生産法人の要件の更なる緩和」、同じページですけれども、③「農業委員会の在り方の見直し」、1枚まくっていただいて3ページ、⑥「農協に対する金融庁検査・公認会計士監査の実施」、この3つの項目につきましては、重点フォローアップ項目というものを農業だけではなくて、全体で9項目ほど定めておりました、その中でこの3項目については重点フォローアップ項目ということでヒアリングも実施させていただいて、その上でその取組をどう評価するかということを重点的にさせていただいているということでございます。

まず、この3項目についてどういう経過かということは今、府省ともヒアリングの結果も踏まえまして協議、確認事項をお願いしているところがございますので、そういった結果と併せて次回、この件については御報告させていただきたいと思っております。加えて、残りの項目については全体で400項目ほどあります。それが農業の部分で言いますとお手元にある40項目ぐらい、大体1割ぐらいでございますけれども、これについては最終的に6月下旬に評価として整えたく思っております、委員会の方でも少し整理いただいておりますので、今、整理途上でございますから、これについてはまた個別に引き続いてお知らせさせていただき、皆様方に確認あるいは御意見も頂きながら、今後、6月下旬に向けて進めていきたいということをお願いしたいと思っております。

駆け足になってしまいましたが、以上でございます。

○佐久間委員 ありがとうございます。

ただいまの説明並びにお手元でございます資料3につきまして、御意見、御質問がございましたら、お願いいたします。よろしゅうございますか。

それでは、本日は初会合でございましたけれども、今後は、冒頭に岡田副総理から御発言がありました本ワーキンググループ設置の趣旨及び事務局から説明のありましたとおり、これまでの農業分野における進捗状況を踏まえ議論を進めてまいりたいと存じます。

最後に今後の日程につきまして、事務局より説明をお願いします。

○小村参事官 次回の日程につきましては、先ほどの今後の進め方の部分で6月中旬ということとなっております。詳細な日程につきましては、追って事務局から御案内を差し上げますので、よろしくお願いいたします。

○佐久間委員 それでは、これにて会議を終了いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございました。